

別冊1

令和2年度事業報告書

社会福祉法人 八代市社会福祉協議会

目 次

令和2年度主要事業実施状況

1. 事業総括	1
2. 社協組織体制基盤の確立	2
3. 地域福祉活動の充実強化	5
4. 福祉ボランティア及び福祉教育の推進	14
5. 相談支援事業の充実	17
6. 高齢者・障がい者福祉の推進	23
7. 児童・母子・父子福祉の推進	23
8. 広報活動の充実	23
9. 在宅福祉事業の充実強化（介護保険事業等）	24
10. その他の事業	27
11. 福祉施設利用状況	29
12. 令和2年7月豪雨に対する取り組み	31
13. 住宅確保要配慮者支援事業	33
14. 校区福祉推進協議会事業報告	34

1. 事業総括

八代市社会福祉協議会は、地域福祉を推進する中核的な機能を有する組織として、関係機関・団体と連携をしながら住民参加による地域福祉活動を展開しています。令和2年度の活動は、令和元年度の後半から引き続き、新型コロナウィルス感染症の影響から解雇・勤務時間の短縮等により、生活のための収入が減り生活が困窮する方を対象に相談支援（生活福祉資金特例貸付等）を継続して進めてきました。また、令和2年7月には豪雨災害により坂本町を中心に甚大な被害が発生し、被災家屋等の片づけ、清掃を支援するための八代市災害ボランティアセンター活動を関係機関及び多くのボランティアの協力のもと実施してきました。令和3年3月末日現在で延べ8,400人を超えるボランティアの支援により約350件完了し、令和3年4月よりスポット型活動に移行しました。令和2年10月には災害ボランティアセンターの運営に加えて、被災者の生活再建の支援を担う八代市地域支え合いセンターを八代市より受託し、被災者に寄り添った支援活動を継続しております。

コロナ禍における社協の通常業務については、緊急事態宣言下においても休止することのできない事業について、検討を実施しました。その中でも、地域福祉権利擁護事業、法人後見制度、生活困窮者自立相談支援センター業務、介護保険事業及び法人運営機能については、継続させることとし対応してまいりました。また、各校区における地域福祉活動は、感染予防策を講じつつ「いきいきサロン」や「ふれあい委員における見守り」については、制約がある中での活動となりました。しかしながら感染拡大状況を鑑み、延期や中止を余儀なくされた研修会等もありました。（※いきいきサロンについては緊急事態宣言下においては、活動は休止しております。）

一方の財政基盤の確立については、自主財源の大きな比重を占める香典返礼寄付金の確保のため、社協だよりによる啓発と各葬儀社へのチラシ配布、各種会合でのお願い等を実施してきました。実績として785件（前年度比82件減）、10,407千円（前年度比843千円減）と前年度より減額の結果となりました。

以下、令和2年度事業実績についてご報告いたします。

2. 社協組織体制基盤の確立

(1) 理事会・評議員会の開催状況

理事会・評議員会等の審議内容等については以下の通り。

会議名	年月日	出席者数	主な議題
第1回理事会	令和2年6月8日	理事 10名 監事 2名	1. 平成31（令和元）年度事業報告について 2. 平成31（令和元）年度決算について 3. 理事の選任（案）について 4. 新評議員候補者の推薦について 5. 評議員選任・解任委員の選任について 6. 評議員選任・解任委員会の開催について 7. 評議員会の開催について 報告1 会長(理事長)の業務執行状況報告について
第1回評議員選任 ・解任委員会	令和2年6月15日	3名	1. 評議員の選任について
第1回評議員会	令和2年6月25日	28名	1. 平成31（令和元）年度事業報告について 2. 平成31（令和元）年度決算について 3. 理事の選任について
第2回理事会	令和2年12月15日	理事 11名 監事 2名	8. 理事の選任（案）について 9. 副会長の選定について 10. 常務理事の選定について 11. 令和2年度補正予算（第1号）について 12. 評議員会の開催について 報告2 災害ボランティアセンターの活動報告について 報告3 地域支え合いセンターの活動状況について
第3回理事会	令和2年12月22日	一	8. 理事の選任（案）について【決議の省略による開催】 12. 評議員会の開催について

第2回評議員会	令和2年12月28日	一	4. 理事1名の選任について 【決議の省略による開催】 5. 令和2年度補正予算（第1号）について その他(1) 災害ボランティアセンターの活動報告について その他(2) 地域支え合いセンターの活動状況について
第4回理事会	令和3年3月17日	理事 12名 監事 1名	13. 令和2年度補正予算（第2号）について 14. 令和3年度事業計画（案）について 15. 令和3年度予算（案）について 16. 利益相反取引に該当する契約の締結について 17. 事務局職員給与規程の一部改正について 18. 評議員会の開催について 報告4 会長(理事長)及び、常務理事(業務執行理事)の業務執行報告について
第3回評議員会	令和3年3月26日	27名	6. 令和2年度補正予算（第2号）について 7. 令和3年度事業計画（案）について 8. 令和3年度予算（案）について

(2) 監査の開催状況

会議名	開催期日	出席者数	内 容
監査	令和2年5月27日	2名	1. 平成31（令和元）年度事業報告について 2. 平成31（令和元）年度決算について

(3) 財政基盤の確立及び職員研修

①社協発展・強化計画策定準備としての職員研修

会議名	開催期日	出席者数	内 容
職員研修	令和3年2月17日	44名	個人情報保護の基礎について 講師 八代市個人情報保護審査会委員 弁護士 宮川 欽之 氏
	令和3年2月25日	16名	
社協発展・強化計画策定に向けた戦略会議	令和3年3月24日	14名	地域共生社会の実現に向けた包括的な支援体制の構築について 他

3. 地域福祉活動の充実強化

地域において誰もが安心してくらせるまちづくりのために下記の事業を行った。

(1) 小地域ネットワーク活動

①高齢者等の「孤立死」や親族・地域とのかかわりを持たない「社会的孤立」状態を防ぐため、住民の「助け合い・支え合い」意識の醸成を図り、地域の実情に沿った住民の見守り体制の構築を進めた。

- ・ふれあい委員 1,703名配置（昨年度比：6名減）
- ・見守り対象者 3,878名（昨年度比：195名減）

②ふれあい委員研修会・連絡会、福祉座談会の開催

高齢者等の見守り活動を通しての気づきや地域での困りごと等について、住民同士でも出来る支え合い活動について話し合った。

- ・ふれあい委員研修会・連絡会 5校区 246名参加（麦島、金剛、郡築、昭和、龍峯）
- ・福祉座談会 実施校区なし

【評価・課題】 ①コロナの影響により5校区において、ふれあい委員の研修等は開催され、見守り対象者の見直し等を実施している。

台帳整備については、書面による整理、小規模短時間での実施、町内単位での実施、民生委員による実施など、各地域工夫して行った。なお、熊本キワニスクラブさまより、見守り対象者、ふれあい委員、民生委員分の布マスクをご寄付頂いており、日頃のさり気ない見守りに加えて、コロナ渦における訪問見守り活動時のツールとして活用した。この活動は令和2年度から3年度にかけて全校区で実施予定。

②高齢者の見守り活動を通じて気づきや地域での困りごと等を話し合う「福祉座談会」はコロナの影響により実施校区はなかった。（昨年は全校区で実施）例年、見守り関係に加え、併せて生活支援コーディネーター事業と絡めた座談会も実施し、地域における生活課題の共有、および、課題解決に向け、地域での支え合う仕組みづくりを検討する場として機能していたが残念ながら実施には至らなかった。※（6）生活支援コーディネーター事業を参照）

(2) 地域に根ざした校区福祉推進協議会活動の支援 【支出額：10,040,470円】

①校区福祉推進協議会が、校区地域福祉活動計画を踏まえそれぞれの地域特性に応じ、創意・工夫を凝らした事業展開が出来るよう、引き続き社協職員をコーディネーターとして配置し校区福祉会の支援を行なった。

【評価・課題】 各校区福祉推進協議会に校区福祉コーディネーターを配置しているため各校区の活動把握ができている。しかし、そもそもコロナの影響により、福祉会活動等の多くが中止になったこと、加えて令和2年7月豪雨災害に伴う災害ボランティアセンターの設置運営に伴い、コーディネーターはもとより社協職員の殆どがその業務に従事することとなり、積極的な訪問支援活動ができなかった。

②校区福祉推進協議会に対し、活動支援として活動助成金の交付を行った。（活動内容の詳細は34～36ページ参照）

③八代市校区福祉推進連絡協議会への情報提供と連絡調整機能の強化

各地域の総合的な福祉向上を図るため、また、それぞれの地域性を踏まえた自主的な活動が展開されるよう、各種研修会等を開催した。

区分	回数	実施日	内 容
役員会	3回	4月、6月	31年度事業報告・決算、2年度事業計画・予算、情報交換、各種研修会、理事会の運営について
監査	1回	4月	31年度事業報告・決算について
理事会	3回	4月、6月、3月	31年度事業報告・決算、2年度事業計画・予算、情報交換、各種研修会等について他
先進地視察研修	-	-	コロナのため中止
八代市ふれあい委員研修会	-	-	コロナのため中止
八代市ふれあいフェスタ【八代市地域福祉推進フォーラム】(共催事業)	-	-	コロナのため中止
熊本県地域福祉推進フォーラム	-	-	コロナのため中止

【評価・課題】本来、ふれあい委員研修会等において、地域で支え合う仕組みづくりが必要であることを学び、住民主体で取り組む意識の醸成の努めてきたが、コロナの影響により、実施することができなかった。
日奈久校区により始まったお互いさまの日(住民同士による支えあい活動)は、地域での支え合う仕組みづくりのきっかけとなる事業であり、これまで他の校区に周知を行うことで新たに取り組む校区もあったが、コロナにより、周知を行う場の確保も難しく、新規の取り組みも無かった。

(3) 第4次八代市地域福祉計画・八代市地域福祉活動計画（愛称：みんなのえがおハ代プラン）【令和2年度～令和6年度】

前回(第3次)計画と同様、市健康福祉政策課と社会福祉協議会との合同事務局を構成し、策定・評価委員会、検討部会、ワークショップ、アンケート調査等を実施、相互に連携しながら策定した。毎年、評価委員会による評価を受けながら、計画に基づき事業等を進めた。

①八代市地域福祉計画・八代市地域福祉活動計画策定 経過（過年度分も含む）

区分	日程	調査内容等	内 容
八代市の現状把握	～令和元年9月	統計資料の整理	過疎化、少子高齢化、高齢者のみ世帯の増加、地区ごとの状況等、介護保険、認知症の状況将来人口の推計等
前期計画の分析・評価	～令和元年9月	社会法制の推移分析	地域福祉にかかる法制度等の状況整理、豪雨災害や生活困窮等の情勢を整理
	～令和元年9月	計画の取り組み評価	毎年度行ってきた評価をまとめ、全体の評価として分析
	～令和元年9月	関係課ヒアリング	関係課に、この間の取り組み状況や今後の課題や施策等に関する聞き取りを実施
地域福祉に関する状況把握	平成30年11月	市民アンケート	市内居住の20歳以上の方、3000名を無作為抽出し、郵送による配布、回収を行った。
	平成30年12月	校区福祉会役員アンケート	20校区福祉会役員(291名)に実施。校区福祉会への理解や活動上の課題・要望等を把握
	平成31年3月	いきいきサロン協力者アンケート	各いきいきサロン代表者(216名)に実施。サロンの活動状況、課題・要望等を把握
	平成30年12月	民生委員児童委員アンケート	民生委員児童委員への市民の理解や活動上の課題・要望等を把握
	令和元年7月	短大生ワークショップ	保育士、介護福祉士を目指す学生が参加。地域福祉に関する意見やアイデア等を引き出すワークショップを開催(協力：中九州短期大学)
	令和元年5月	高校生ワークショップ	高校生8名が参加。地域福祉に関する意見やアイデア等を引き出すワークショップを開催(協力：八代高校)
	令和元年7月、8月、9月	市民ワークショップ	地域福祉に関する意見やアイデア等を引き出す市民ワークショップを開催。
その他	令和元年7月	校区福祉会活動評価	5年間の評価を基に検討し、事業の見直しや追加を行った。
	令和元年9月	社協職員ワークショップ	社協事業全般の評価・検討
	～令和元年9月	福祉懇談会や各校区の活動状況からこれまでの評価と計画検討	この間の計画の評価をもとに、今後の取り組みを役員や担当社協職員で協議
計画の検討	令和2年1月、3月	策定・評価委員会の開催	関係団体代表や有識者による計画検討(第2回委員会は3月に書面決議)
	令和2年2月	パブリックコメント	ホームページでの意見募集(市HPにより周知)
策定	令和2年3月	-	-
配付	令和2年4月～	-	社協役職員他関係機関等
研修	令和3年2月	-	令和2年度地域共生社会推進人材養成研修会に市職員と参加(重層的支援体制整備事業等について)
評価	令和3年2月	-	八代市地域福祉活動計画R2年度取組状況調査入力シート作成提出(策定・評価委員会用資料)

【評価・課題】 地域住民の複合・複雑化した支援ニーズに対応する包括的な支援体制を整備するため、①相談支援（属性を問わない相談支援、多機関協働による支援、アウトリーチ等を通じた継続的支援）、②参加支援、③地域づくりに向けた支援を一体的に実施する重層的支援体制整備事業が令和3年4月に市町村の任意事業として始まった。社協としては、社協が担う地域福祉事業とリンクさせながら、八代市において、標記事業にどのように向き合うべきか、両計画と整合性を取りながら、市担当課と協議していきたい。

(4) いきいきサロン事業の推進 【支出額：13,157,095円】

①フレイル予防のための「おうちで簡単にできるストレッチ運動」の配布及び社協だよりでの周知（コロナ禍における活動①）

【評価・課題】 緊急事態宣言中のサロンは休止としたため、動かない（生活が不活発な）状態が続くことにより、心身の機能が低下し、虚弱状態（フレイル）が進まないようサロン職員をモデルとした「ストレッチ運動」のチラシを作成し配布等行った。

②令和2年7月豪雨坂本町復興応援プロジェクト「第1回いきいきサロン コロナ川柳大会」の開催（コロナ禍における活動②）

【評価・課題】 サロンの自粛・休止による長期にわたるおうち時間を活用し、サロンが開催できず仲間と会えないモヤモヤ等の思いを「サロンとコロナ」をテーマに川柳を募集。668句応募があり、最優秀賞ほか10句を選定し、表彰した。なお、令和2年7月豪雨坂本町復興応援プロジェクトとして、賞品については、坂本町の特産品（鶴喰米・鮎の甘露煮）や温泉センタークレオングの回数券等をお届けした。

③地域包括支援センター等の関係機関と連携し、介護予防を重視したプログラムを取り入れ下記のとおり開催された。

校区名	代陽	八代	太田郷	植柳	麦島	松高	八千把	高田	金剛	郡築	宮地
サロン設置数	7	6	22	6	12	11	16	10	14	7	8
開催回数	36	24	96	120	87	33	84	78	69	20	45
参加者数	399	215	1,213	1,623	925	424	915	812	671	212	317

校区名	日奈久	昭和	二見	龍峯	坂本	千丁	鏡	東陽	泉	合 計	前年度比較増減
サロン設置数	14	7	13	6	19	11	12	12	13	226サロン	±0サロン
開催回数	28	10	38	27	21	14	42	17	94	983回	▲2,009回
参加者数	303	99	360	189	205	270	523	146	586	10,407人	▲24,866人

【評価・課題】 サロン設置数は、鏡校区が1カ所廃止となったが、令和2年7月豪雨災害により坂本校区の被災者のために建設された市民球場仮設団地で新設1となったため設置数は±0となった。センターの高齢化等もあり、次世代の担い手がなかなか見つからなくやむなく休止中もある。センターの育成にも力をいれていき、休止しないでよい環境をつくっていく必要がある。開催回数については、新型コロナワイルス感染症予防のため令和2年8月1日～9月30日及び令和3年1月14日～令和3年2月7日まで自粛を呼びかけたため、例年より減少している。

今回の自粛・休止期間中には、多くの皆さんより「いつから再開するのか」とのお声を頂き、また、地域包括支援センターからも、「サロン休止により行き場を失った方が多数いらっしゃり、サロン開始を切望されている」と話を頂いたり、引き続き皆さんのが参加したいと思って頂けるサロン作りのお手伝いをしていきたい。

④いきいきサロンの内容充実並びに活性化を図るため、プログラムボランティアの養成講座等を開催予定であったが中止した。

事業名	実施日(予定日)	参加者数	内容
(第1回) いきいきサロンレクリエーション講習会～初級編～	6月11日(木)	新型コロナウイルス感染症予防の観点から、中止	地域のサロン活動や交流事業等で役立つレクリエーションの指導技術を学び、サロン活動の活性化につなげる。
(第2回) いきいきサロンレクリエーション講習会	9月18日(金)		
(第3回) いきいきサロンレクリエーション講習会	2月22日(月)		

【評価・課題】 例年30～50名程度の方に参加頂いているが、新型コロナウイルス感染症予防の観点から、やむなく中止とした。

⑤各サロン間の交流を深め、いきいきサロンの活性化を図るためにサロン大会を開催予定であったが中止した。

事業名	実施日(予定日)	新型コロナウイルス 感染症予防の観点か ら、中止	内容
八代市いきいきサロン大会	10月30日(金)		<ul style="list-style-type: none"> ・サロン活動功労者表彰 ・サロンのあゆみ ・サロン発表

【評価・課題】 例年400名程度の方に参加頂いており、多くの皆さんにサロン大会に出演するという目標にして頂いていたが、新型コロナウイルス感染症予防の観点から、やむなく中止とした。功労者28名には、職員から感染予防策を講じて個別に訪問し表彰状と記念品をお渡しした。

⑥各サロンの活性化を支援することを目的にサロンバスの運行を行った。

使用状況		〈主な行き先〉
利用回数	4回	・遥拝神社・ふれあいセンター泉・東陽交流センターせせらぎ・県営八代運動公園
延利用者数	56人	

【評価・課題】 サロンの外出の機会として、活用されているが、コロナによるサロン自粛・休止の影響で利用回数等は減少した（前年度は利用回数50回、利用者数約700人）。バスの老朽化のため突然の故障や安全確保の面で不安が残る。

⑦やつしろふれあい交流センターひなたぼっこを利用してサロン活動の活性化を図った。

開所日数	6日	利用者数	20人
<利用内容> •作り物（さげもん、ハイターで描くバナナ作り） •軽体操、健康マージャンにおいては、新型コロナウィルス感染拡大防止のため開催を中止した。			

開所日数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	5

利用者数内訳	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	総計
サロン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
相談窓口	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	10	20	

【評価・課題】ひなたぼっこは、本来は本所の3階で3つのプログラムで開催する予定だったが、新型コロナウィルスの関係で3階が生活福祉資金の相談窓口となり使えなくなったのと、感染拡大防止のためしばらく休止していた。支え合いセンターが同じ本町1丁目にできたため、場所の一部をかりて、感染防止対策のため少人数で事前申し込み制とし、作り物のみ開催した。開催すれば、毎回楽しみに来られるが、昨年までのように大盛況とまではできず集える場所の提供とまではなっていないのが現状。ほかの2つの軽体操と健康マージャンのプログラムも開催できるよう考えて行く必要がある。

(5) 生活支援コーディネーター事業（八代市委託事業）【支出額：13,292,000円】

介護予防・生活支援に関する情報収集や地域課題の検討のための事業を下記のとおり行なった。

①地域資源及び地域ニーズの把握

●社会資源の把握

- ・八代市地域資源一覧表の情報更新作業再調査を実施。新規開拓として23件の新規サービス、計82サービスの登録。
- ・八代市地域資源一覧表の配布（八代市地域協議会連絡会議、市婦連理事、市老連理事、民児協、校区福祉会役員、包括、居宅）609冊

●生活支援ニーズ調査

- ・地域のちょっとした寄合や商店に集まる人たちに声かけをした。
- ・7月豪雨で被災した坂本町については、地域支え合いセンターの相談員よりニーズについての依頼があった。

②ワークショップの実施（福祉座談会）

- ・新型コロナウィルス感染拡大防止のため開催を中止した。

③ネットワーク構築

- 各校区福祉会の会議への出席、地域包括支援センター主催の地域ケア会議・運営協議会、その他の会議等へ参加するなど、各関係機関との情報交換の場を持った。

④職員の配置

- 生活支援コーディネーター：4名配置

⑤周知・啓発活動

- 社協だよりへの掲載（年3回）、各校区福祉会等会議へ参加し、事業内容について説明を行なった。

⑥八代市生活支援・介護予防サービス推進会議（第1層協議会）の開催状況

●第1層協議会へ出席し事業の進め方の検討を行なった

回数	開催期日	会場	協議内容	参加人数
1	令和2年10月26日 (月)	市役所仮設	(1) 八代市における生活支援体制整備事業について (2) 令和2年度生活支援コーディネーター事業計画について	7
2	令和3年3月29日 (月)	市役所仮設	(1) 令和2年度取り組み状況報告 (2) 来年度の方向性について	7

⑦地域住民による支え合い活動の取組み

住民同士による支え合いにより一層活発になるための「きっかけづくり」を目的に実施。

●千丁校区福祉会における「ふれあいの日」活動

新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催を中止した

●日奈久校区福祉会における「お互いさまの日」活動

新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催を中止した

【評価・課題】今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から思うように事業が行えなかったところはあるが、7月豪雨の被災者の方からのニーズを支え合いセンターの相談員より提供があり、一緒に問題解決をしていった部分もあった。もっと、地域の中のもともとあるちょっとした資源の発掘に努めて行く必要があるとともに地域のニーズを気軽に話してもらえるような日頃からのコミュニケーションづくりが必要だと思う。

(7) 小規模法人のネットワーク化による協働推進事業（共同募金配分金事業）

全ての社会福祉法人は「地域における公益的な取組み」の実施が責務化されたが、小規模法人においては経営基盤や職員体制により、単独での実施が困難な状況にあるため、小規模法人を含め様々な機関が連携し、地域貢献の取り組みが促進されるよう、この事業を通じて各法人と取り組みに向けた連携を図るもの。

①複数法人連携による地域貢献のための協働事業（7園〔7法人〕が協力）

- ・各法人で法人内及び地域住民への周知協力を依頼し、アルミ缶・新聞紙を収集し、社協へ物品寄付とする。その後集まった資源を業者へ持ち込み現金化する。
- ・現金化したのちに社協事業の小口資金貸付事業、食料等の支援の原資とする。

※支援の実績については生活困窮者自立相談支援事業報告を参照

【協力：パール保育園、昭和保育園、文政保育園、わかあゆ保育園、いすみ保育園、キューピー保育園、あげまち保育園】

②法人間連携プラットフォーム→コロナのため中止

③福祉人材確保・定着のための取り組み→コロナのため中止

【評価・課題】 コロナウイルス感染症拡大予防の観点から、連携会議及び、福祉人材確保定着の取り組みについては、中止とした。しかしながら、地域貢献の一環としての協働事業については7園よりご協力いただいた。現金化し、生活にお困りの方への緊急小口資金等の原資として活用させていただいた。

地域における公益的な取組み広げていくため、法人間で協働できるものは何か話し合う場が必要となるが、今後はオンライン等での協議も視野に入れ進めていきたい。

一昨年に実施した保育フェアについては、単年国庫補助を活用し実施したものであるが、今後、実施する場合は各法人による財源拠出についても検討する必要あり。直接的な人材確保につながらなくても、学生等に八代の保育園の魅力を周知できる機会であり、将来の就職の選択肢として保育士を考えいただけるものと思われるため参加法人と実施について協議していきたい。

(8) 男性の地域デビューを推進する事業（共同募金配分金事業）

地域活動においては、大勢の女性が元気に活動しており、どちらかと言えば、男性の地域参加は少ない傾向にある。定年後、生活の大半を家庭で過ごすようになってから地域活動（町内活動やボランティア活動、気の合う仲間との地域貢献など）へ参加することを「地域デビュー」と表現することがあり、その「男性の地域デビュー」を推進し、生きがいをもって様々な活動を通して元気に楽しく過ごす男性のグループ作りを支援するもの。

回数	開催期日	会場	協議内容	参加人数
1	令和2年10月28日（水）	桜十字ホール	（1）発足会（自己紹介）	6
2	令和2年11月16日（月）	桜十字ホール	（1）顔合わせ（自己紹介、名刺交換会等）（2）グループの方向性について	8
3	令和2年12月21日（月）	桜十字ホール	（1）グループ名の決定「元気がいちばん！余暇よかクラブ」略称「YYC」（2）グループの方向性について	6
4	令和3年2月27日（土）	（東陽）地域福祉センター-石匠館	（1）地域の良い所再確認（石匠館で種山の石工の勉強と、石橋めぐり等）	6
5	令和3年3月20日（土）	居鷲嶽せせらぎ	（1）地域の良い所再確認（東陽町居鷲嶽の登頂）（2）来年度の方向性について（地域貢献の検討、竹灯り作製など）	6

【評価・課題】

発足会から会を重ねながら、お互いに打ち解けて、各自の考え方やグループでやりたいことなど、様々な意見が出てきた。現役時代を都会で過ごし、何十年ぶりに八代にUターンした方もいて、八代の良い所も何も分からぬ方もいらっしゃったことから、八代の良い所を再確認しながら、徐々に地域貢献に取り組んでいくようになった。今後予定している社協事業のワークショップ等にボランティアとして参加してみようとの話もでており、今後、地域貢献活動に向けての話し合いも進んでいくと思われる。

4. 福祉ボランティア及び福祉教育の推進

ボランティア活動の振興を図るために下記の事業を行った。

(1) 福祉ボランティア事業

事業名	会場	実施日	参加者数	内容	支出額
サマーボランティアスクール (コロナ感染拡大を考慮し今年度は中止)	—	—	—	例年「自分にできることを見つけよう」をテーマに、小学4年生から6年生を対象として、車イス体験、いきいきサロンの方との交流、レクリエーションを実施していた。今年度は新型コロナウイルスの感染拡大を受け、参加者の安全を考慮し中止とした。	—

【評価・課題】 今年度、コロナの影響で中止という形になったが、来年度に関しても実施できるかどうか。
コロナ渦において何か変わった形でできないか開催形態（内容）の変更も含めて検討する必要がある。

(2) 災害ボランティアセンター関係事業

(※令和2年7月豪雨 災害ボランティアセンター活動報告は、次回以降開催される理事会・評議員会にて改めてご報告いたします。)

事業名	会場	実施日	参加者数	内容	支出額
災害ボランティアセンター設置訓練	社協 泉支所	中止		氷川町社協、八代青年会議所との災害時応援協定に基づき、三社合同の災害ボランティアセンター設置訓練を実施予定であったが、令和2年豪雨災害に係る災害ボランティアセンターの開設運営・コロナウイルス感染拡大の影響を受け中止。	—
八代青年会議所6月度例会 (災害協力協定による連絡会議1回目)	SUNAB ACO八代	R2年 6/16 (火)	-	年1回以上の連絡会議を協定に基づき実施している。また八代青年会議所役員交代が毎年行われることから、協力体制を図ることを目的に交代時期に会議を設ける。 今回、災害ボランティアセンターの役割についての研修も併せて行った。本研修会の開催により令和2年7月豪雨時に迅速な連携ができた。	
八代青年会議所11月度例会 (災害協力協定による連絡会議2回目)	野尻写真館	R2年 11/17 (火)	-	年1回以上の連絡会議を協定に基づき実施している。特に令和2年7月豪雨災害に伴う災害ボランティアセンターの設置を実施したため、ボランティアセンター設置における課題等を振り返るために実施した。今回の災害に対する連携協力をいただいたことに感謝申し上げた。	

【評価・課題】 平成30年度より氷川町社協と年度交代による開催場所を設け、八代青年会議所とも連携し設置訓練を行ってきた。その成果もあり、令和2年豪雨災害では迅速な連携を図ることが出来、災害ボランティアセンターを運営することができた。この経験を踏まえ今後、さらに連携強化を深めていく。

(3) ボランティアセンター運営

①センター登録ボランティア数

項目	登録数	登録期間	世代別				
個人	76名（男：16、女：60） ※新規登録者：2名		10代：0名 60代：9名	20代：2名 70代：29名	30代：3名 80代：26名	40代：3名 90代：0名	50代：4名
団体	38団体 ※新規登録団体：1団体	1年間					

②ボランティア派遣

項目	件 数	協力団体	内 容
点字	0件	点訳ボランティア虹の会	八代市・氷川町内の小中学校へゲストティーチャーとしてボランティア団体を調整。主に授業の総合学習内で実施。
手話	1件	手話サークルわかぎ八代	
講話	1件	個人・団体・社協	視覚障害者による講話及び点字の読み取りや指導。
趣味・演芸	0件	個人・団体	八代市内で開催される行事等への派遣。
その他	6件	個人・団体・社協	ボランティア活動相談及び活動先への調整

③福祉機器貸出

貸出用物品	件 数
点字器	3件
高齢者疑似体験セット	2件
車いす	9件
アイマスク	1件
その他	1件

④ボランティア保険

種 類	加入人数／件数	内 容
ボランティア活動保険の加入	4,929名	年間を通してボランティア活動における傷害・賠償補償
ボランティア行事用保険の加入	1,500名	行事、いきいきサロン開催ごとに様々な事故に対する障害・賠償補償
賠償・傷害保険金の請求	18件	活動中の物損、活動中の転倒ケガ、会議に向かう途中での交通事故

【評価・課題】 ボランティアセンター登録者には安心して活動ができるようボランティア活動保険の加入を推進した。

⑤ボランティア出前講座

依頼者	会場	実施日	参加者数	内容
日奈久中学校 (中学3年生)	日奈久中体育館	R2年 9/25(金)	18名	<ボランティア講座、車いす体験、アイマスク体験> ボランティア講座と交えて、車いすの体験、アイマスク体験を行い、障害を持つ方に対して今後自分に何ができるかを考えることを目的に実施。新型コロナウイルスへの感染に十分に注意し開催した。
昭和小学校 (小学3・4年生)	昭和小体育館	R2年 11/24(火)	17名	<ボランティア講座、車いす体験、アイマスク体験> ボランティア講座と交えて、車いすの仕組み、アイマスク体験を実施。相手の立場に立った考え方を学ぶことを目的に実施。新型コロナウイルスへの感染に十分に注意し開催した。

【評価・課題】 新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、出前講座の件数も少なかなった。今後は、感染症の影響下においても実施できるボランティア学習や講座のメニューを考えていきたい。

5. 相談支援事業の充実

生活基盤の安定化を支援し、住み慣れたまちで安心して生活がおくれるように下記の事業を実施した。

(1) 生活福祉資金貸付事業 【支出額： 5,675,425円】

①令和2年度相談件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	21	10	15	13	17	28	30	35	21	16	56	64	326

②令和2年度 資金種別ごと貸付決定当初における貸付件数及び貸付金額

資 金 種 別		件数(件)	貸付金額(円) ※元金のみ
総合支援資金	生活支援費	0	○
	住宅入居費	0	○
	一時生活再建費	0	○
福祉資金	福祉費（生業・購入等）	1	1,500,000
	緊急小口資金	0	○
教育支援資金	教育支援費・就学支度費	0	○
不動産担保型生活資金	不動産担保型生活資金	0	○
	要援護者世帯向け	0	○
	不動産担保型生活資金	0	○
臨時特例つなぎ資金		0	○
合 計		1	1,500,000

【評価・課題】

生活困窮者自立相談支援事業との連携により、貸付相談から相談者の抱える問題や生活困窮の原因への対応ができた。また、貸付対象にならなかった相談者に対しても、関係機関を紹介するなど助言、支援に努めた。課題として、貸付を希望されても、貸付対象にならない方への対応に困ることがある。※新型コロナウィルス感染症に対する支援策の一つとして緊急小口資金特例貸付が令和2年3月25日から開始。R2年度申請件数776件、申請金額141,150,000円である。また、総合支援資金特例貸付が令和2年4月より開始された。申請件数847件、申請金額462,500,000円である。

③令和2年度末 貸付件数及び貸付金額（全体）

資 金 種 別		件数(件)	貸付金額(円) ※元金のみ
総合支援資金	生活支援費	17	8,016,500
	住宅入居費	4	484,801
	一時生活再建費	5	390,362
離職者支援資金	離職者支援費（生活費）	2	2,000,000
福祉資金	福祉費（生業・購入等）	12	14,638,565
	緊急小口資金	10	888,000
教育支援資金	教育支援費・就学支度費	53	28,490,350
不動産担保型生活資金	不動産担保型生活資金	0	○
	要援護者世帯向け	0	○
	不動産担保型生活資金	0	○
臨時特例つなぎ資金		2	190,000
合 計		105	55,098,578

【評価・課題】

滞納世帯に対して督促状の送付や電話による償還指導を行い、償還の促進に努めることができた。新型コロナウィルス感染拡大防止の観点から、訪問指導は控えている。償還が困難な借受世帯に対しては、借受世帯の状況に応じて各支援機関との連携のもと支援を行っている。

(2) 地域福祉権利擁護事業（法人成年後見事業含）【支出額：4,491,425円】

①利用件数の推移（平成28年度～令和2年度）

	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
契約件数	48	66	80	97	94
新規契約件数	28	30	32	15	19
解約件数	10	16	15	18	23
現契約件数	66	80	97	94	90
相談件数	1,794	2,508	2,907	2,557	2,243

※相談件数には利用者援助に関する相談も含む。

②令和2年度契約締結件数内訳

対象別	認知症高齢者	精神障がい者	知的障がい者	その他	合 計
件 数	35	32	22	1	90

区 分	課 税	非課税	生活保護受給者	合 計
件 数	4	55	31	90

③令和2年度生活支援員及び職員による訪問援助回数

	人 数	回 数	一人当たり 年平均回数
生活支援員 (職員含む)	16	2,150	134.4

【評価・課題】 医療機関や福祉関係事業所、生活困窮者自立相談支援事業等からの新規相談が増えている。また、支援困難ケースも増えており、福祉関係機関等との連携を図りながら、事業の啓発、利用者支援を積極的に行った。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により研修会への参加等ができなかった為、来年度は、利用者への適切な支援を図るために研修会に参加し資質向上に取り組んでいく。

④生活支援員を対象とした研修会への参加及び実施

1) 県社協主催による研修会への参加

令和2年度熊本県地域福祉権利擁護事業生活支援員等研修会

※新型コロナウイルス感染症の影響により不参加とする。

2) 八代市社協主催による研修会の実施

令和2年度地域福祉権利擁護事業研修会

※新型コロナウイルス感染症の影響により中止とする。

(3) 法人成年後見事業

認知症、知的障がい、精神障がいなどの理由で判断能力の不十分な方々は不動産や預貯金などの財産を管理したり、身のまわりの世話のために介護サービスや施設への入所に関する契約を結んだり、遺産分割の協議をしたりする必要がある場合があります。自分でこれらのことをするのが難しい場合があります。このような判断能力の不十分な方々を保護し支援するために、平成30年度より本事業を実施しております。

なお、本事業は熊本家庭裁判所八代支部からの後見人等推薦依頼に伴い、法人成年後見業務審議委員会で審議のうえ、本会が法定後見人となることについて決定されます。

①令和2年度 利用者数及び支援状況

対象区分	区分	支援回数								
		認知症	知的障がい	精神障がい	課税	非課税	生活保護受給者	定期訪問	その他	合計
成年後見人	1	1	0	0	0	1	0	9	18	27
保佐人	1	1	0	0	0	1	0	8	28	36
補助人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	2	2	0	0	0	2	0	17	46	63

②令和2年度 成年後見制度職員研修会

※新型コロナウイルス感染症の影響により中止とする。

【評価・課題】 成年被後見人及び被保佐人は、各入所施設で安定した日常生活を送られています。今後も成年被後見人等に対して適正な支援を図りながら、熊本家庭裁判所八代支部から新規依頼があった場合の受任体制を整備し、地域福祉権利擁護事業と一体的な支援を図っていく必要がある。また今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で成年後見制度職員研修会が開催できなかった為、来年度は、職員の質の向上を図るために研修会を開催していく。

(4) 生活困窮者自立相談支援事業（八代市委託事業）【支出額：18,092,550円】

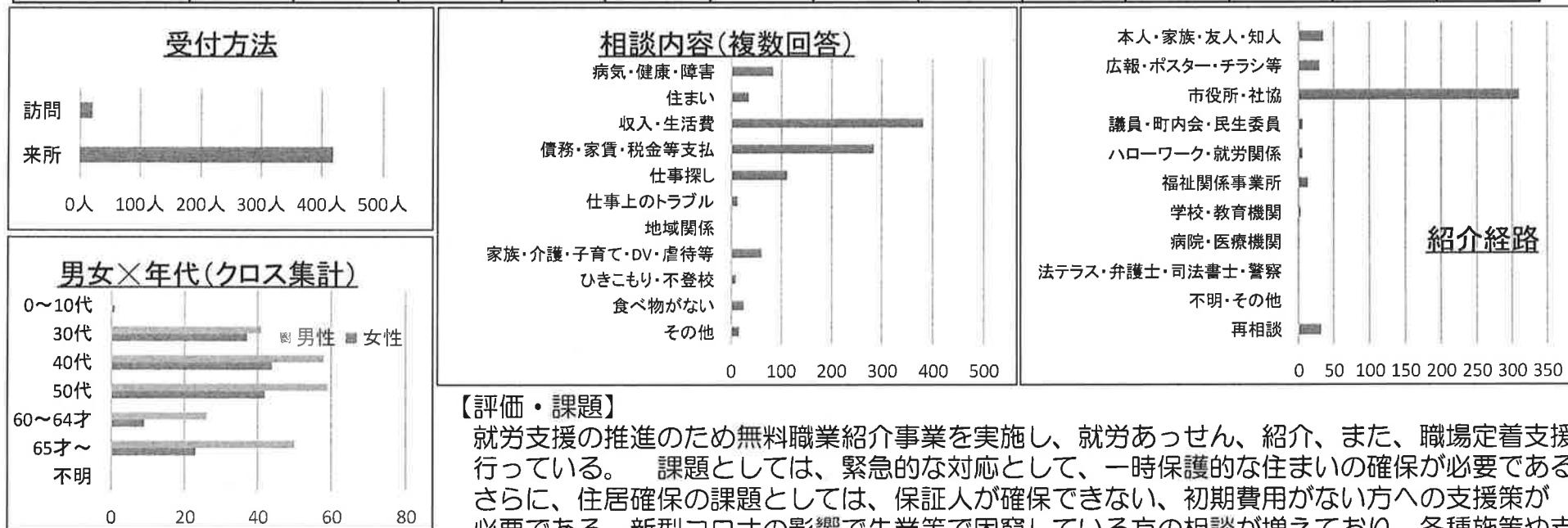
平成27年度からの5年間の受託実績を踏まえ、就労支援の強化、ひきこもりに対する支援など、見えてきた課題への取り組みとさらなる事業展開を目指し力を入れてきた。また、新型コロナウィルス感染症の影響で失業や減収になられた方の相談支援を行った。主任相談支援員1名（兼務）、相談支援員3名、就労支援員1名配置している。

①事業周知・啓発活動

- 1. 社協だより（全世帯配付：年3回）、社協HPへの掲載
- 3. 出張相談カレンダーを作成し民協会長会にて配付
- 2. パンフレット等の配付（行政・関係機関）
- 4. 会議・研修会での説明（各関係機関主催研修会等）

②支援実績

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
相談件数	24	20	20	34	41	48	43	30	25	36	62	57	440
プラン作成件数	7	7	4	7	9	6	4	0	4	0	11	17	76
就労実現者数	5	2	2	3	0	1	2	3	1	1	0	2	22
就労による增收者数	1	0	1	0	0	0	3	2	1	0	0	0	8



【評価・課題】

就労支援の推進のため無料職業紹介事業を実施し、就労あっせん、紹介、また、職場定着支援を行っている。課題としては、緊急的な対応として、一時保護的な住まいの確保が必要である。さらに、住居確保の課題としては、保証人が確保できない、初期費用がない方への支援策が必要である。新型コロナの影響で失業等で困窮している方の相談が増えており、各種施策や支援を利用できるよう情報提供や相談支援を行っている。

※緊急支援の実施：緊急食料等支援事業

八代市に居住する生活困窮者に対し、緊急的かつ一時的に生計維持が困難になった場合に食料等の現物を提供することにより、自立支援するとともに助け合いのできるまちづくりを推進し、地域福祉の増進を図ることを目的とし実施した。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
提供件数	5	12	3	7	6	3	9	5	4	8	8	12	82

【評価・課題】

寄付者件数は、事業開始年度である28年度は48件、29年度23件、30年度は41件、令和元年度は59件、令和2年度は68件だった。年々、寄付件数が増え、協力者が増えている。緊急対応として効果があり、さらなる寄付物品の確保に努めたい。

※緊急支援の実施：小口資金貸付事業

生活困窮者世帯が不測の事態により、緊急的に援護を必要とする理由が生じたとき、資金の貸付を行い、生活の安定を図ることを目的とし実施した。貸付財源として、福祉バザー益金やアルミ缶・新聞紙回収益金を利用している。その他、一般寄付金を頂いている。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
貸付件数	4	6	3	2	2	4	2	3	1	0	0	1	28

貸付金額：261,050円（28件）

貸付累計金額：797,088円（78件） 償還累計金額：318,088円 貸付累計残額：479,000円

【評価・課題】

緊急的に他の融資が受けられない場合において、ライフライン等維持するために資金貸付を行い、有効な支援となった。財源確保の一手段として、小規模法人（保育園）との連携により資源の寄付を頂くなど、ご協力頂いている。新型コロナの影響で福祉バザーが開催できず、収益が上がらない。課題としては、貸付金の安定した財源の確保である。

※無料職業紹介事業　　自立相談支援申込者で、就労を希望される方を対象に職業紹介・斡旋を行う。

求職登録者数：32件 就職決定者数：5件 求人登録数：8件(105人) 離職者（6ヶ月以内）3人

【評価・課題】

就職後の定着支援を行う等、自立相談支援事業と包括的な支援を行うことにより、効果的な支援を行うことができている。課題としては生活が逼迫しているが、すぐに就労が困難な方に対する支援が難しい。また、就労定着が困難な方が増えている。

※令和2年度熊本県生活困窮者に対する緊急・一時支援事業（熊本県補助事業）

新型コロナウィルスの感染症対策のため、緊急に支援が必要な生活困窮者に、生活必需品の給付、一時的な住まいや食事の提供等の緊急・一時的な支援を行った。 補助金額：1,010,000円

※保護施設等に対する新型コロナウィルス対策事業（熊本県補助事業）

感染拡大を防止するため、マスクや消毒液等の衛生用品購入に係る経費に対する補助を受けた。

1回目：消毒液、非接触体温計 26,954円

2回目：マスク、CO₂濃度測定器、サーモマネージャー144,410円

補助金額：171,364円

※赤い羽根 新型コロナ感染下の福祉活動応援全国キャンペーンフードバンク活動等応援助成

生活困窮者に対する緊急支援のための食料等支援事業の活動費として助成事業に応募し、決定した。

食料等の備蓄のために物置を購入し設置した。また、お米の保存用に玄米保冷庫を購入した。

助成金額：440,000円

6. 障がい者福祉の推進

障がい者の自立した生活と社会参加を推進するために市民に広く団体・施設活動を周知することを目的に事業を実施予定であったが、新型コロナウィルス感染拡大防止の為、開催を中止した。

事業名	実施日	会場	参加者数	内容	支出額
ふれあいフェスタ	11月14日(土) (開催中止)	ハーモニーホール	-	式典、福祉功労者表彰、一人金婚者表彰、 福祉講演会、ステージ発表、展示、食バー ザー	-

【評価・課題】新型コロナウィルス感染拡大の影響を鑑み、開催を中止した。予定していた社協会長表彰等については、市長応接室にて3月29日に実施した。

7. 児童・母子・父子福祉の推進

次世代を担う子供たちの健全育成の一助として、児童遊具の補修費助成(令和2年度からは遊具の撤去費も含む)を実施している。

事業名	件数	助成先(町内)	助成金額	内容
児童遊具補修助成	2件	古閑下町 妙見町	51,705円	老朽化したブランコ、滑り台等の補修・撤去

【評価・課題】令和2年度は、予算の範囲内(100,000円)で対応できた。例年1~2件程度の申請件数である。

8. 広報活動の充実

(1) 社協だよりの発行 【支出額： 2,347,295円】

社協の組織や活動内容について広く市民に周知を図るために、広報誌「やつしろし社協だより」を年3回発行し全世帯に配布した。

発行番号	発行日	発行部数	摘要
第55号	6月1日	49,500部	全世帯に配布(8ページ) 音声訳8名・点字訳7名
第56号	10月1日	49,500部	全世帯に配布(8ページ) 音声訳8名・点字訳7名
第57号	2月1日	49,500部	全世帯に配布(8ページ) 音声訳8名・点字訳7名

【評価・課題】八代市の全世帯に向けて社協だよりを発行している。令和2年度より視覚障がいの方にも情報を提供できるように、音声訳と点字による社協だよりを配布した。

(2) 社協ホームページ及びSNS等を活用した情報発信

社協組織の概要や事業の予告・報告、福祉、災害義援金の取扱い等に関する情報を随時更新し情報発信に努めた。

(ホームページ) <http://www.yatsushiro-shakyo.jp/>

(Facebook) <https://www.facebook.com/yatsushiroshakyo/>

(Twitter) <https://twitter.com/yatsu46shakyo>

【評価・課題】令和2年7月豪雨災害に伴う災害ボランティアセンターの開設以降、ボランティアセンターの活動状況や、ボランティアの募集、天候や新型コロナウィルス感染拡大予防等による急遽の中止のお知らせ等、SNSを活用してきた。特にFacebookにおいては、災害ボランティアセンター前後でフォロワー数が約1400程度増えており、多くの方に関心をもってもらうことができた。引き続き被災者支援活動としての八代市地域支え合いセンター事業においても同様に情報発信している。引き続き、社協の地域福祉事業等も積極的に記事をアップし、社協をより身近に感じてもらい、共感を得られるよう、頻繁にアップしていきたい。

9. 在宅福祉事業の充実強化（介護保険事業等）

高齢者、障がい者の在宅での自立した生活を支援するために下記の事業を行った。

（1）介護保険事業の年間利用者数及び利用実績

①居宅介護支援事業（介護予防プラン受託含む）

【収入額：30,092,530円／支出額：29,172,249円】 収支差額920,281 円

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均	令和1年度 合計	令和1年度 月平均
八代支所	利用者数	114	115	113	116	112	112	114	114	120	118	120	120	1,388	116	1,440	120
泉支所	利用者数	63	66	67	64	64	69	66	68	68	66	63	67	791	66	793	66
合計	利用者数	177	181	180	180	176	181	180	182	188	184	183	187	2,179	182	2,233	186

【評価・課題】

収入額について今年度は収支差額が920,281円の黒字となったが、黒字の額を昨年度と比較すれば、約2,100,000円減額している。黒字の額が減少している要因を挙げれば、収入では単価の内訳が変わったこと。昨年度と比べ報酬単価の高い要介護度の人数が減り、報酬単価が低い要支援の人数が増えたことにある。これによって収入総額が昨年度と比べ約1,200,000円の減収となった。支出では大きなものとして人件費の増額。正規職員の定期昇給で、正規職員5名の給与と賞与合わせて昨年度と比較すれば約200,000円の増額。また、公用車1台のリース関連が約300,000円の増額となった。さらに、臨時の支出では入浴車両のボイラー等機器を取り外して乗用車に改修したことによる修繕費が約200,000円の増額となった。まずは黒字額を下げないようにすることが今後の課題となった。

②通所介護事業（介護予防含む）

【収入額：65,555,851円／支出額：62,161,607円】 ◇③お達者クラブの収支含む。収支差額3,394,244円

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均	令和1年度 合計	令和1年度 月平均
泉支所 (さわやか荘)	利用者数	38	35	35	34	34	35	38	39	40	39	35	35	437	36	515	43
	利用回数	483	491	507	491	448	428	522	521	517	461	426	489	5,784	482	6,782	565
泉支所 (ふくじゅ草)	利用者数	9	8	6	7	9	9	9	9	8	6	6	7	93	8	118	10
	利用回数	54	46	38	37	49	42	46	41	35	32	35	37	492	41	724	60
合計	利用者数	47	43	41	41	43	44	47	48	48	45	41	42	530	44	633	53
	利用回数	537	537	545	528	497	470	568	562	552	493	461	526	6,276	523	7,506	626

【評価・課題】

収入額について今年度は収支差額が3,394,244円の黒字となったが、黒字の額を昨年度と比較すれば、約2,400,000円減額している。黒字の額が減少している要因を挙げれば、一つ目に収入の内訳が変わったこと。さわやか荘で昨年度と比べ報酬単価の高い要介護度の人数が減り、報酬単価が低い要支援の人数が増えたことにある。これによって収入総額が昨年度と比べ約2,615,000円の減収となった。二つ目にふくじゅ草の大幅な利用者の減少がある。昨年度と比べ要介護度の人数が4割弱も減り、昨年度の収入額より約1,965,000円の減収となった。

なお、支出については変動費（利用者の数に応じて費用増減がある給食費や娯楽用品、車両関係の燃料費など）で減額になったため赤字にはならなかった。特に今年度は指定管理者制度の中での運営のため、建物や設備の維持管理は必要であり細かい破損の修繕や大型の不用品の処分などに費用が多くかかった。

今後は運営に支障をきたすことが無いように黒字を維持し、住民から喜ばれる事業所を目指して取り組んでいく。

③総合事業（お達者クラブ） 【 収入額 ／ 支出額】 ◇②通所介護事業に含む。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均	令和1年度 合計	令和1年度 月平均
泉支所 (さわやか荘)	利用者数	5	7	8	10	9	8	8	8	7	7	8	7	92	8	84	7
	利用回数	31	41	53	63	63	61	59	49	49	51	53	51	624	52	484	40

(2) 受託事業の年間利用者数及び利用実績

①あんしん相談センター事業 【収入額：960,000円／支出額：960,000円】

※地域包括支援センターの協力機関。介護予防サービスの紹介や申請代行、各種福祉サービスの紹介、介護予防教室開催の協力をを行っている。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均	令和1年度 合計	令和1年度 月平均
泉支所 (相談業務)	実利用者数	3	9	9	4	13	5	6	6	9	5	8	6	83	7	73	6
	延利用件数	5	11	10	4	17	5	9	7	9	13	11	11	112	9	85	7

②介護予防送迎事業 【収入額：2,337,000円／支出額：2,337,000円】

※いきいきサロン、やつしろ元気体操教室などの介護予防事業へ参加する人の利便性を図るため、泉憩の家、五家荘憩いの家、柿迫生きがいセンターへの送迎を行った。

ただし、今年度については新型コロナ感染拡大防止のため八代市の地域福祉事業が休止し、それに伴い送迎が半分以上ありませんでした。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均	令和1年度 合計	令和1年度 月平均
泉支所	延利用者数	12	0	60	48	0	0	107	104	72	0	0	104	507	42	1,377	115
	利用日数	2	0	11	11	0	0	18	15	11	0	0	14	82	7	175	15

10. その他の事業

(1) その他の事業

事業名	日時	会場	対象者数	内容	執行額
やつしろし万灯会	8月15日(土) (無観客で実施)	桜十字ホールやつしろ	1,940人 (初盆供養者)	初盆を迎へ、御靈の冥福を祈ると共に、家族の方々の一日も早い悲しみからの立ち直りと繁栄を願い開催予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、無観客により式典を実施した。また、台風の影響により中止した、令和元年度初盆供養者1938人分も併せて供養を行った。(対象期間:R1.7.1~R2.6.30) なお、式典の模様は後日、YouTubeにアップした。	-
ひとり金婚者祝い事業	中止	桜十字ホールやつしろ	17人	結婚50周年を迎へ、配偶者に先立たれながらも、子育てやご家族のためにご尽力された方へふれあいフェスタ式典時に記念品を贈呈する予定であった。新型コロナウイルス感染拡大の影響を鑑み中止。	-

【評価・課題】やつしろし万灯会となり初めての開催となったが新型コロナウイルス感染拡大の影響により無観客での実施となった。今後やつしろし万灯会を開催する際は、万灯のほかに地域住民に呼びかけ竹灯籠等を作成し、八代市の新しい風物詩として市民の皆様に認識頂くことを目的に開催する。

(2) 日本赤十字社事業

①活動資金募集実績

標準目標額	実績額
15,157,000円	13,603,665円

【評価・課題】各校区の婦人会を対象に勉強会を行い赤十字の理念について理解を深めていただけた。婦人会や町内会長の会議等に伺って改めて日赤事業の説明をしたもの、実績額は目標を下回ってしまった。今後も活動資金募集への理解を深めてもらえるよう努める。

②災害救援物資配布事業

台風災害及び一般住宅火災被災世帯への救援物資の配布

※衣類載り1包、避難用具
(令和2年7月豪雨災害)への救

援物資配布を行った。

区分	件数
全焼	2件
半焼	0件
全壊	1件
半壊	0件
床上浸水	0件
※部分焼	0件

※部分焼については、原則配付対象外であるが、物資の配布が必要と判断される場合は配付を行う。

【評価・課題】地域奉仕団(婦人会)及び町内会長と連携を図り迅速に救援物資の配布を行った。避難所へ迅速に救援物資の提供を行うことができた。

③救援金・義援金募集実績(令和3年3月末実績) 累計額

「東日本大震災義援金」	48,287,251円
「平成28年熊本地震災害義援金」	3,050,514円
「令和元年台風第15号千葉県災害義援金」	11,877円
「令和元年台風第19号災害義援金」	481,416円
「令和2年7月豪雨災害義援金」	226,784円

(3) 共同募金事業

①募金実績額

目標額	実績額
23,267,500円	16,054,560円

②内訳

区分	金額(円)
街頭募金	18,513
戸別募金	13,589,880
法人募金	1,032,125
個人募金	127,700
学校募金	438,880
職域募金	611,769
その他の募金	235,693
チャリティー募金	0
計	16,054,560

③令和2年度配分金事業内訳

事業名
老人クラブ育成事業
障がい児・者福祉活動費
福祉団体活動助成
児童遊具補修事業
校区福祉会育成費
社協だより発行事業
ボランティアセンター運営事業

【評価・課題】

今年度は、ドラえもんの組立式募金箱を、幼・保育園のみから、小・中・高・大学等にも資材としてお渡しする事で、学内募金を促進し、学校募金の増加に繋がった。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響から、街頭募金やチャリティー募金が実施出来ず募金額が減少し、目標額を下回る結果となった。

今後は、募金活動に工夫を加えながら、より広く周知を行っていく必要がある。

(4) 観察、研修の受入・講師派遣状況

県内外の社協等の研修を受け入れ、互いの活動状況について意見交換を行った。

	観察者等	期 日	人数	内 容
1	【再掲】八代青年会議所	6月16日	-	【6月度定例会】 「災害発生時における被災地支援等に関する協力協定」の再確認
2	【再掲】八代青年会議所	11月17日	-	【11月度定例会】 「災害発生時における被災地支援等に関する協力」に基づく、災害ボランティアセンター運営の振り返り
3	熊本県社会福祉協議会 (県ボランティアセンター)	12月16日	-	【市町村社協災害ボランティア設置運営研修会】
4	愛知県碧海5市社会福祉協議会 (オンライン)	1月27日	-	【碧海5市災害ボランティアセンター運営勉強会】
5	京都府社会福祉協議会 (オンライン)	2月2日	-	【令和2年度京都府災害ボランティアセンター災害支援コーディネーター養成講座】令和2年7月豪雨 コロナ渦での災害対応より
6	日本青年会議所 (国土強靭化委員会/国家グループ)	1月22日/2月16日	-	令和2年7月豪雨災害における「八代青年会議所」と「八代市社会福祉協議会」の連携について

【評価・課題】

令和2年7月豪雨により被災、コロナ渦における災害ボランティアセンターの設置運営ということで、コロナ対策であったり、ボランティアの募集範囲も県内に制限したりと初めての尽くしのボランティアセンター運営であったため、災害VCに係る研修依頼があった。

11. 福祉施設利用状況

指定管理施設等（本所除く）の管理・運営業務を行った。

(1) 社協本所 ※指定管理対象外施設

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1階オープンスペース（屋外）	利用件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1階オープンスペース（屋内）	利用件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3階第1会議室	利用件数	5	4	5	3	1	1	1	2	1	3	2	2	30
	利用者数	56	48	35	20	8	6	11	16	8	10	15	24	257
3階第2会議室	利用件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3階大会議室（第1+第2）	利用件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	45	0	45
合計	利用件数	5	4	5	3	1	1	1	2	1	3	3	2	31
	利用者数	56	48	35	20	8	6	11	16	8	10	60	24	302

(2) 坂本地域福祉センター

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
坂本支所	開館日数	21	18	22	—	—	20	22	23	20	19	19	23	207
	利用者数	40	5	29	—	—	148	143	233	357	147	412	82	1,596

(3)鏡地域福祉センター

鏡支所		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	開館日数	21	18	22	21	20	19	22	19	19	19	18	22	240
	利用者数	52	56	373	381	313	249	382	358	223	101	204	382	3,074

(4)東陽地域福祉保健センター

東陽支所		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	開館日数	21	18	22	21	20	20	22	21	20	19	18	23	245
	利用者数	32	69	269	152	191	56	122	356	123	61	53	154	1,638

(5)泉憩いの家

泉支所 (泉憩いの 家)		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	利用件数	0	0	6	4	3	2	4	4	1	0	1	4	29
	利用者数	0	0	420	60	34	27	64	67	25	0	7	64	768

(6)さわやか荘一般入浴他

泉支所 (さわやか 荘)		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	利用者数	70	71	88	85	81	75	80	85	89	121	87	125	1,057

(7)柿迫生きがいセンター

泉支所 (施設利用)		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	利用者数	5	0	35	25	0	0	68	74	56	0	0	73	336
	泉支所 (入浴)	利用者数	201	41	162	71	142	143	219	219	235	71	113	232

(8)高齢者生活支援ハウス事業 ※居宅において生活することに不安のある方に対し、一定期間住居を提供し、各種相談及び助言を行なうとともに緊急時の対策を行っている。

泉支所		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	利用者数	8	7	8	8	7	7	7	7	7	8	8	9	91
	利用日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365

12. 令和2年7月豪雨に対する取り組み

1. 八代市地域支え合いセンター設置運営事業

【支出額：17,277,490円】

令和2年7月豪雨における被災者への訪問、電話等により孤立防止等のための見守り支援を行うとともに生活再建にむけて課題等を的確に把握し各種相談等、被災者に対する支援を一体的に提供するため設置された。

2. 事業内容

(1) 会議等の開催

①連絡会議（個別事例等について検討している）

毎月1回（年間4回開催）

会議名	開催期日	参加関係機関	内容	備考
連絡会（通算1回目）	12月8日	市健康福祉政策課、市住宅課、県支援事務所、社協	取組状況報告、困難ケース検討、今後の支援スケジュール	
連絡会（通算2回目）	1月8日	市健康福祉政策課、市住宅課、県支援事務所、社協	取組状況報告、困難ケース検討、今後の支援スケジュール	
連絡会（通算3回目）	2月8日	市健康福祉政策課、市住宅課、県支援事務所、社協	取組状況報告、困難ケース検討、今後の支援スケジュール	
連絡会（通算4回目）	3月8日	市健康福祉政策課、市住宅課、県支援事務所、社協	取組状況報告、困難ケース検討、今後の支援スケジュール	

②ミーティング（県支援事務所と生活再建へ向けての検討をする）週1回

(2) 訪問・相談等

○支援回数（令和3年3月31日集計）

	支援実施回数（延べ数）						
	合計	訪問	電話	来所	他機関へのつなぎ	文章等	その他
仮設	575	450	37	21	6	3	58
みなし仮設	1070	672	230	71	17	6	74
在宅	517	431	56	13	0	1	16
災害公営住宅	0	0	0	0	0	0	0
一般公営住宅	74	37	22	4	0	1	10
その他	521	281	143	19	3	24	51
合計	2757	1871	488	128	26	35	209

・仮設住宅等入居者や在宅被災者に相談連絡先を周知し、相談窓口として被災者から相談を受け、情報の提供や関係機関へつないだ。

・生活支援相談員が2人1組となり、定期訪問等を行った。

見守活動をしていく中で課題が見つかった世帯については連絡会等でケース検討を行い市や関係機関と連携して支援を行った。

(3) コミュニティづくりのコーディネイト

- ・八代市内のみなし仮設にお住まいの方を対象にカフェを開催し久しぶりに再会してお茶を飲みながら交流する事業を行った。

名称：みんなde八千把カフェ

内容：みなし仮設、仮設住宅にお住まいの方を対象に、被災後バラバラになってしまった方々が久しぶりに再開できる場所の提供を行った。協力団体によりお茶の提供や生活用品の提供が行われた。また、ゼンリン地図を見ながら、お互いの住まいの確認をした。

開催：1回 八千把コミュニティーセンター

参加者数：26名

- ・交流をかねて鹿革を使ってキーホルダーの作成をした。

内容：東陽町の鹿クラフトクラブの方を講師にお迎えし、誰でも簡単に作れるキーホルダーの作成を行った。場所：支え合いセンター 参加者数：18名

(4) ボランティア団体との連絡調整

- ・ボランティアの受け入れについて、各団体等と連絡調整し、一部の活動については、センターも協力し、住民との関係づくりに務めた。

受け入れ件数：延べ7件

内容：炊き出し、作り物、紙芝居等

(5) 関係機関との連携

- ・連絡会議を設置し、専門機関や住民自治、NPO団体等、関係団体間の情報交換や連絡調整を行った。

会議名称：八代市地域支え合いセンター連絡会議

構成メンバー：地域支え合いセンター、市健康福祉政策課、市住宅課、県支え合いセンター支援事務所他

内容：月次報告、状況報告、個別ケース検討等

回数：月1回 計4回開催

会議名称：八代市坂本町支援活動団体連絡会議

構成メンバー：社協、地域支え合いセンター、住民自治協、各団体の代表

内容：各団体の活動状況、ニーズ（ボランティアセンター）の調整等

回数：隔週 （3月30日より参加）

3. 職員の資質向上のための各種会議及び研修会等

- ・「基礎研修会」 令和2年10月20日（人吉会場）2名参加
令和2年11月5日（八代会場）9名参加
- ・「災害に備えての支援者のスキルアップ研修会」
令和3年1月7日 2名参加
- ・「個人情報保護について（基礎編）」 令和3年2月17日 9名参加
- ・「災害復興期の心のケア研修会」 令和3年2月4日 8名参加
- ・「傾聴研修会」 令和3年2月26日（1回目） 9名参加
令和3年3月 9日（2回目） 9名参加
- ・「相談員としての心構え（寄り添った支援とは）」
令和3年3月25日 11名参加

【評価・課題】

2名1組のチームで校区担当制とし、仮設住宅をはじめみなし仮設、在宅等八代市内外の広域に生活する被災者の支援（訪問活動や相談業務）を行ってきた。

ボランティア団体の協力によりバラバラになった被災者を集めて「みんなdeカフェ」を開催し、久しぶりに集える場所の提供をした。

高齢者が多いため、イベントを開催するときに交通手段がない人の送迎等をどうするかが課題となる。

各関係機関と協働して実施できた。関係機関と連携を図りスムーズに行うことができ感謝している。

13. 住宅確保要配慮者支援事業

1. 住宅確保要配慮者支援事業

高齢者、低所得者、障がい者世帯等において、保証人がいない、緊急時の対応が不安などの理由により、民間賃貸住宅への入居が困難な場合があるため、八代市社会福祉協議会が家賃債務保証の窓口や様々な入居後の生活支援サービスのコーディネーターとなり、円滑な居住支援を行うもの。

2. 事業内容

(1) 会議・打合せ・研修等について

関係機関との会議等	開催期日	【参加者】・内容等
「居住支援メルマガ」登録による最新情報等の確保	-	国土交通省住宅局安心居住推進課発行 令和2年5月1日配信【第11号】～令和3年3月16日配信【第19号】
居住支援法人研修会（1）(全居協主催)	1月13日（水）	【主催】全国居住支援法人協議会
居住支援法人研修会（2）(全居協主催)	1月19日（火）	【主催】全国居住支援法人協議会
居住支援法人研修会（3）(全居協主催)	1月21日（木）	【主催】全国居住支援法人協議会
居住支援法人研修会（4）(全居協主催)	1月27日（水）	【主催】全国居住支援法人協議会
居住支援法人研修会（5）(全居協主催)	1月29日（金）	【主催】全国居住支援法人協議会
八代市住宅課担当者との打ち合わせ	-	
R3年度第1回関係機関連絡会議	-	【宅建協、健康福祉政策課、社会援護課、建築住宅課、包括支援センター、障がい者相談事業所、熊本市社協】※コロナ感染症拡大防止のた中止

【評価・課題】

年度内事業開始を目指し、関係機関連絡会議を予定していたが、コロナウィルス感染症予防の観点から中止とし、また令和2年7月豪雨に伴う災害ボランティアセイ地域支え合いセンター業務を優先することとし、研修の受講及び、国交省のメールマガジン等による情報収集につとめた。

そもそも、本事業は熊本地震時、みなし仮設住宅の入居期限(2年)経過後、一般民間住宅に移る際の保証人不在を補うために熊本市社協が始めたのがきっかけである八代市も令和2年7月に被災し、みなし仮設等にお住まいの方も多数、いらっしゃるためその方々のためにも、3年度早い時期に事業開始の準備を整えたい。

14. 校区福祉推進協議会事業報告

地域概要：令和2年3月31日現在

行政区域	332 区
人口	124,895 人
世帯数	56,931 世帯
高齢化率	34.3 %
65歳以上人口	42,833 人
平均年齢	49.8 歳
市社協補助金	10,040,470 円
ネットワーク数（対象者数）	3,878 件
ふれあい委員数	1,703 人
サロン設置数	220 ケ所

※令和2年度事業内容

<共通事業> 1. ふれあい委員活動の充実 2. 広報紙の発行 3. いきいきサロンの支援 4. 福祉座談会の開催

<重点推進事業> 1. 認知症を理解する研修会の開催 2. いきいきサロン新規参加者の拡大

代陽校区福祉推進協議会		八代校区福祉推進協議会		太田校区福祉推進協議会		植柳校区福祉推進協議会		麦島校区福祉推進協議会	
設立：平成7年8月21日		設立：平成5年12月14日		設立：平成6年12月21日		設立：平成7年3月6日		設立：平成7年8月18日	
行政区 人 口 世帯 数 高齢化率 65歳以上人口 平均年齢 市社協補助金 ネットワーク数 ふれあい委員数 サロン設置数	25 地区 7,705 人 3,838 世帯 31.7 % 2,441 人 48.6 歳 693,600 円 387 人 112 人 7ヶ所	行政区 人 口 世帯 数 高齢化率 65歳以上人口 平均年齢 市社協補助金 ネットワーク数 ふれあい委員数 サロン設置数	13 地区 5,012 人 2,634 世帯 34.5 % 1,729 人 50.6 歳 481,520 円 119 人 48 人 6ヶ所	行政区 人 口 世帯 数 高齢化率 65歳以上人口 平均年齢 市社協補助金 ネットワーク数 ふれあい委員数 サロン設置数	31 地区 14,988 人 7,014 世帯 30.7 % 4,606 人 47.8 歳 1,048,870 円 460 人 164 人 22ヶ所	行政区 人 口 世帯 数 高齢化率 65歳以上人口 平均年齢 市社協補助金 ネットワーク数 ふれあい委員数 サロン設置数	6 地区 4,644 人 2,105 世帯 35.1 % 1,630 人 49.9 歳 402,380 円 99 人 70 人 6ヶ所	行政区 人 口 世帯 数 高齢化率 65歳以上人口 平均年齢 市社協補助金 ネットワーク数 ふれあい委員数 サロン設置数	12 地区 7,716 人 3,595 世帯 34.0 % 2,620 人 49.2 歳 588,180 円 267 人 74 人 11ヶ所
共通事業	1 ふれあい委員活動の充実 ・ふれあい委員研修会・連絡会議(コロナのため中止) ・福祉座談会(コロナのため中止) 2 広報紙の発行（年1回）※令和2年度は中止 3 いきいきサロンの支援 ・サロンサポーター研修会(コロナのため中止) ・サロン設置と参加者の拡大 ・助成金交付	1 ふれあい委員活動の充実 ・ふれあい委員全体研修(1回)（コロナのため中止） 見守り対象者の見直し（コロナのため中止） ・福祉座談会(3回)（コロナのため中止） 2 広報紙の発行（年1回）※自治会便りに掲載 3 いきいきサロンの支援 ・助成金交付 ・いきいきサロン担当者勉強会(コロナのため中止)	1 ふれあい委員活動の充実 ・ふれあい委員連絡会議（コロナのため中止） 活動説明、福祉座談会、台帳整備 ※台帳整備は画面にて実施 2 広報紙の発行（年1回）編集会議2回（コロナのため中止） 3 いきいきサロンの支援 ・助成金交付 ・いきいきサロン担当者勉強会（コロナのため中止）	1 ふれあい委員活動の充実 ・ふれあい委員連絡会議（コロナのため中止） 見守り活動 ・福祉座談会(室内個別会員と交換会議会)（コロナのため中止） 高齢者への声掛け・見守り活動 2 広報紙の発行（年1回） 3 いきいきサロンの支援 ・サロンサポーター研修会（資料配布のみ） ・助成金交付 ・各町内サポーター会議	1 ふれあい委員活動の充実 ・ふれあい委員連絡会議（コロナのため中止） 福智座談会（室内個別会員と交換会議会）（コロナのため中止） 高齢者への声掛け・見守り活動 2 広報紙の発行（年1回） 3 いきいきサロンの支援 ・サロンサポーター研修会（資料配布のみ） ・助成金交付 ・各町内サポーター会議	1 ふれあい委員活動の充実 ・ふれあい委員連絡会議（コロナのため中止） 福智座談会（室内個別会員と交換会議会）（コロナのため中止） 高齢者への声掛け・見守り活動 2 広報紙の発行（年1回） 3 いきいきサロンの支援 ・サロンサポーター研修会（資料配布のみ） ・助成金交付 ・各町内サポーター会議	1 ふれあい委員活動の充実 ・ふれあい委員連絡会議（各町内で実施） ・町内長・民生委員による見守り対象者印作成(各町内で実施) ・認知症センター研修（中止）福祉座談会(中止) 2 広報紙の発行（年2回） 3 いきいきサロンの支援 ・助成金交付 ・いきいきサロン研修会（コロナのため中止） ・三中生サロン交流会（コロナのため中止） 4 サロンサポーター活動の充実		
	4 福祉グランドゴルフ大会(福智親子大会)(コロナのため中止) 5 町内福祉事業助成(コロナのため中止) 6 校区敬老会(住民自治への協力) 町内敬老会(主催)(コロナのため中止) 7 代陽校区「どんどう」(世代間交流)(住民自治への協力) 8 代陽校区ふれあいまつり(住民自治への協力)(各事業コロナのため中止)	4 ふれあい交流会（木曜日午後3時～5時）(コロナの影響によりレンタルのチヨコガ池) 5 友愛訪問（75歳以上独り暮らし世帯安否確認） 6 独居高齢者対象の懇親会（公演で見守るおじさんおじいちゃん）中 7 福祉座談会（構成団体の役員会員が聴修）（コロナのため中止） 8 健康アピール講習会(コロナのため中止) 9 老人クラブ演芸会支援（コロナのため中止） 10 独居老人への年賀はがき送付(1代目100名分) 11 災害時料理教室(市販食材による料理講習会) 災害時に適した料理講習会を行った。	4 ふれあい交流会（各町内） 5 年末友愛訪問（見舞品贈呈） 6 75歳以上一人暮らし・65歳以上寝たきり 490名対象（※対象者は民生委員に調査依頼） 7 カルタ会（コロナのため中止） 8 小童百人一首カルタ・読み聞かせ・ぜんざい会 9 シルバービンボン（毎週月曜）（コロナの影響により1月のみ開催） 9 舞世代間交流（各町内、年1回）（コロナのため中止）	4 敬老会（式典に代わり祝品配布） 5 植柳ふれあい祭り・盆踊り(コロナのため中止) 6 七夕裏見（飾り作り・読み聞かせ会）（コロナのため中止） 7 カルタ会（コロナのため中止） 8 小童百人一首カルタ・読み聞かせ・ぜんざい会 9 シルバービンボン（毎週月曜）（コロナの影響により1月のみ開催） 9 舞世代間交流（各町内、年1回）（コロナのため中止）	4 ふれあい交流会（各町内） 5 年末友愛訪問（見舞品贈呈） 6 75歳以上一人暮らし・65歳以上寝たきり 490名対象（※対象者は民生委員に調査依頼） 7 カルタ会（コロナのため中止） 8 小童百人一首カルタ・読み聞かせ・ぜんざい会 9 シルバービンボン（毎週月曜）（コロナの影響により1月のみ開催） 9 舞世代間交流（各町内、年1回）（コロナのため中止）	4 ふれあい交流会（各町内） 5 年末友愛訪問（見舞品贈呈） 6 75歳以上一人暮らし・65歳以上寝たきり 490名対象（※対象者は民生委員に調査依頼） 7 カルタ会（コロナのため中止） 8 小童百人一首カルタ・読み聞かせ・ぜんざい会 9 シルバービンボン（毎週月曜）（コロナの影響により1月のみ開催） 9 舞世代間交流（各町内、年1回）（コロナのため中止）	1 役員研修（施設訪問）（コロナのため中止） 2 友愛訪問（75歳以上独居） 7 日赤講習会（新型コロナウイルス感染防止の為中止） 8 世代間交流事業（どんどうや等）		
松高校区福祉推進協議会		八千把校区福祉推進協議会		高田校区福祉推進協議会		金剛校区福祉推進協議会		郡葵校区福祉推進協議会	
設立：平成7年8月28日		設立：平成5年9月20日		設立：平成7年3月1日		設立：平成4年12月11日		設立：平成5年12月15日	
行政区 人 口 世帯 数 高齢化率 65歳以上人口 平均年齢 市社協補助金 ネットワーク数 ふれあい委員数 サロン設置数	13 地区 13,079 人 5,734 世帯 27.9 % 3,653 人 46.0 歳 926,300 円 256 人 75 人 11ヶ所	行政区 人 口 世帯 数 高齢化率 65歳以上人口 平均年齢 市社協補助金 ネットワーク数 ふれあい委員数 サロン設置数	16 地区 14,645 人 6,657 世帯 28.6 % 4,190 人 46.4 歳 933,860 円 307 人 133 人 16ヶ所	行政区 人 口 世帯 数 高齢化率 65歳以上人口 平均年齢 市社協補助金 ネットワーク数 ふれあい委員数 サロン設置数	10 地区 8,400 人 4,011 世帯 35.3 % 2,963 人 50.4 歳 579,500 円 216 人 60 人 10ヶ所	行政区 人 口 世帯 数 高齢化率 65歳以上人口 平均年齢 市社協補助金 ネットワーク数 ふれあい委員数 サロン設置数	12 地区 5,496 人 2,310 世帯 37.4 % 2,055 人 51.7 歳 414,040 円 113 人 57 人 12ヶ所	行政区 人 口 世帯 数 高齢化率 65歳以上人口 平均年齢 市社協補助金 ネットワーク数 ふれあい委員数 サロン設置数	13 地区 4,827 人 2,341 世帯 30.5 % 1,470 人 47.1 歳 328,600 円 70 人 65 人 7ヶ所
共通事業	1 ふれあい委員活動の充実 ・ふれあい委員研修会（コロナ禍のため中止） ・ふれあい委員連絡会（町内） 2 福祉座談会（コロナ禍のため中止） 3 広報紙の発行（年1回）※まち協により記載） 4 いきいきサロンの支援 ・助成金交付 ・サロンサポーター研修会（コロナ禍のため中止） 5 サロンサポーター活動の充実(コロナ禍のため中止)	1 ふれあい委員活動の充実 ・民友委員と合同研修（コロナのため中止） ・セイワク台帳作成・整理、講話、福祉座談会 ・ふれあい委員研修会（コロナのため中止） （前期）ふれあい委員活動について （後期）認知症について 2 広報紙の発行（年1回） 3 いきいきサロンの支援 ・サロンサポーター研修会（コロナのため中止） ・助成金交付 （↓コロナのため中止） ・四中生サロン研修会・四中生交流サロン（年2回） ・校区内いきいきサロンの集い（コロナのため中止）	1 ふれあい委員活動の充実 ・ふれあい委員研修会（コロナのため中止） ・活動について・活動発表・対象者及び担当の確認 ・福祉座談会（コロナのため中止） ・ひとり暮らし・高齢者との交流会（コロナのため中止） 2 広報紙の発行（年2回10月・3月）（コロナのため中止） 3 いきいきサロンの支援 ・助成金交付 ・サロンサポーター研修会（コロナのため中止） ・第5回いきいきサロン大会（コロナのため中止）	1 ふれあい委員活動の充実 ・ふれあい委員研修会（コロナのため中止） ふれあい委員活動・対象者確認・生活支援コーディネーター事業 ・常任委員研修会 地域づくりと健康、防災（避難所について） 2 広報紙の発行（年2回 7月・1月） 3 いきいきサロンの支援 ・サロンサポーター研修（コロナのため中止） ・助成金交付 4 男の料理教室 餅つき体験（JPTA、小学生、保育園児等も参加）	1 ふれあい委員活動の充実 ・ふれあい委員連絡会（年1回） ※通常は年2回だが、コロナ感染症の影響で今年度は年1回 台帳整備 2 広報紙の発行（年1回） 3 いきいきサロンの支援 ・サロンサポーター研修（コロナのため中止） ・助成金交付				
	6 世代間交流事業 ・松高「ふれあいまつり」（コロナ禍のため中止） 7 校区歩け歩け大会（3室の徹底、コース変更を行い実施） （参加者137名） 8 敬老会（式典は中止し景品の配布を行った） 9 ふれあい交流会（独居高齢者）（コロナ禍のため中止） 10 見守り対象者へのマスク配布	4 男性の料理教室（年2回 9月・2月） →（コロナのため中止） 5 大やわら祭り（世代間交流） ・発表会・コンサート →（コロナのため中止） 6 各種団体の交流 7 熊本県産マスクプロジェクト ・民生・兒童委員、ふれあい委員、見守り対象者にマスク配布	4 男性の料理教室（年1回10月）（コロナのため中止） 5 一人暮らし高齢者年賀状友愛活動（77歳以上） 高田小1,2年生に依頼（対象182名） 6 町内福祉座談会（コロナのため中止）	5 第10回いきいきふれあい祭り（コロナのため中止） 6 第19回いきいきサロン大会（コロナのため中止） 7 見開き事業 ・8月長期入院・（12月）75歳超1人暮らし・寝たきり 8 ふれあい福祉事業「グラウンドゴルフ大会」 9 敬老会事業へ協力 ・ウェルネス婚対象者へ記念品等、トカラヨ出演	4 男性の料理教室（年1回）→コロナのため中止 5 心れあい福祉年賀状 ・一人暮らしの高齢者へ小学生から年賀状 6 健康づくりグラウンドゴルフ大会（コロナのため中止） 7 渚止め記念祭（規模を縮小して開催） 8 救急法訓練				

宮地地区福祉推進協議会		日奈久校区福祉推進協議会		昭和校区福祉会		二見校区福祉推進協議会		龍臺校区福祉推進協議会	
地域概要	設立:平成6年11月18日	設立:平成5年12月8日		設立:平成4年11月4日		設立:平成7年11月8日		設立:平成7年10月5日	
行政区 人口 世帯数 高齢化率 65歳以上人口 平均年齢 市社協補助金 ネットワーク数 ふれあい委員数 サロン設置数	6 地区 3,234 人 1,477 世帯 38.9 % 1,257 人 52.4 歳 373,560 円 135 人 62 人 5 ケ所	行政区 人口 世帯数 高齢化率 65歳以上人口 平均年齢 市社協補助金 ネットワーク数 ふれあい委員数 サロン設置数	15 地区 2,525 人 1,313 世帯 54.8 % 1,383 人 60.3 歲 305,660 円 145 人 85 人 14 ケ所	行政区 人口 世帯数 高齢化率 65歳以上人口 平均年齢 市社協補助金 ネットワーク数 ふれあい委員数 サロン設置数	3 地区 1,224 人 526 世帯 30.4 % 372 人 47.5 歳 205,280 円 19 人 14 人 4 ケ所	行政区 人口 世帯数 高齢化率 65歳以上人口 平均年齢 市社協補助金 ネットワーク数 ふれあい委員数 サロン設置数	10 地区 1,553 人 782 世帯 53.4 % 830 人 61.3 歳 240,560 円 65 人 35 人 13 ケ所	行政区 人口 世帯数 高齢化率 65歳以上人口 平均年齢 市社協補助金 ネットワーク数 ふれあい委員数 サロン設置数	6 地区 1,571 人 656 世帯 44.3 % 696 人 55.4 歳 234,820 円 57 人 19 人 6 ケ所
共通事業	1 ふれあい委員活動の充実 ・小地域ネットワーク拡張と見直し(各町内) ・ふれあい委員研修会(コロナのため中止) 2 広報紙の発行(年1回 3月) 3 いきいきサロンの支援 ・サロンサポーター研修(コロナのため中止) ・助成金交付	1 ふれあい委員活動の充実 ・ふれあい委員研修会(コロナのため中止) ・講演「高齢者の交通安全・防犯教室」 ・福祉座談会(お互いさまの日)内容検討等(コロナのため中止) 2 広報紙の発行(住民自治広報紙に随時掲載) ・(年5回 6月・8月・10月・11月・12月) 3 いきいきサロンの支援 ・助成金交付 ・いきいきサロン研修会(コロナのため中止)	1 ふれあい委員活動の充実 ・ふれあい委員研修会(コロナのため中止) ・情報交換、認知症予防体操、見守りマスク配付 福祉座談会(コロナのため中止) 2 広報紙の発行(なし) 3 いきいきサロンの支援 ・助成金交付 ・いきいきサロン研修会(コロナのため中止) 4 福祉座談会(コロナのため中止)	1 ふれあい委員活動の充実 ・ふれあい委員研修会(コロナのため中止) 見守り対象者について情報交換(規模を縮小し実施) 福祉座談会(コロナのため中止) 2 広報紙の発行(年2回 7月・12月) 3 いきいきサロンへの支援 ・いきいきサロンサポーター研修会(コロナのため中止) ・助成金交付	1 ふれあい委員活動の充実 ・ふれあい委員研修会(コロナのため中止) 見守り対象者基本台帳の整備 2 広報誌の発行(令和2年度は発行中止) 3 いきいきサロンの支援 ・各サロンの活動状況の把握 ・助成金交付 ・サロンサポーター研修会(コロナのため中止)	1 ふれあい委員活動の充実 ・ふれあい委員研修 ・見守り対象者基本台帳の整備 2 広報誌の発行(令和2年度は発行中止) 3 いきいきサロンの支援 ・各サロンの活動状況の把握 ・助成金交付 ・サロンサポーター研修会(コロナのため中止)			
独自事業等	4 男性の料理教室(年5回)(内1回:健康料理教室)(コロナのため中止) 5 敬老会(コロナのため中止) 6 民元協・福祉会役員研修(コロナのため中止) 7 益踊りへの協力(コロナのため中止) 8 宮地わくわく・わっフェスへの協力(コロナのため中止) ・世代間交流(しめ縄作り)・活動写真展示 9 高齢者へのふれあい葉書き(宮地小へ協力依頼) 10 高齢者への年末友愛訪問(コロナのため中止) 11 宮地小給食ふれあい会(75歳以上)(コロナのため中止)	4 第9回日奈久校区いきいきサロンの集い ・各町内サロンより演芸発表(コロナのため中止) 5 施設行事への協力 ・保育園「どんどや火祭り」(コロナのため中止) 6 第3回「お互いさまの日」(コロナのため中止) 各町内(忍ふき、除草、剪定、ゴミ出し等)支援	5 役員研修会(コロナのため中止) 6 敬老会・文化祭(コロナのため中止) 7 百歳長寿表彰(1名)	4 二見フードフェスタ(啓発パネル、地域交流)(中止) 5 敬老会(まち協と共に)(コロナのため中止) 6 グラウンドゴルフ大会(小中学校との交流含む)(中止) 年3回(6月、10月、2月) 7 一人暮らし老人宅訪問 ・75歳以上の高齢者、生活状況伺い 8 地域交流ウォーキング大会(コロナのため中止)	4 男性の料理教室(年1回)(コロナのため中止) 5 世代間交流(ふれあい頃朝食会(小学生のみで実施)) 6 校区敬老会(共催) ・式典は中止 対象者へは記念品を配布 7 ひとり暮らし高齢者のつどい(各町内) 対象者宅へ訪問し、記念品を配布 8 校区夏まつり(出店)(コロナのため中止) 9 福祉研修会(コロナのため中止)	4 男女の料理教室(年1回)(コロナのため中止) 5 世代間交流(ふれあい頃朝食会(小学生のみで実施)) 6 校区敬老会(共催) ・式典は中止 対象者へは記念品を配布 7 ひとり暮らし高齢者のつどい(各町内) 対象者宅へ訪問し、記念品を配布 8 校区夏まつり(出店)(コロナのため中止) 9 福祉研修会(コロナのため中止)			
坂本校区福祉推進協議会		千丁校区福祉推進協議会		鶴地域福祉推進協議会		東陽校区福祉推進協議会		泉校区福祉推進協議会	
地域概要	設立:平成20年3月26日	設立:平成19年3月15日		設立:平成20年3月28日		設立:平成20年3月28日		設立:平成20年3月28日	
行政区 人口 世帯数 高齢化率 65歳以上人口 平均年齢 市社協補助金 ネットワーク数 ふれあい委員数 サロン設置数	27 地区 2,975 人 1,527 世帯 60.3 % 1,793 人 64.9 歳 379,420 円 441 人 180 人 19 ケ所	行政区 人口 世帯数 高齢化率 65歳以上人口 平均年齢 市社協補助金 ネットワーク数 ふれあい委員数 サロン設置数	16 地区 7,356 人 2,855 世帯 30.7 % 2,257 人 47.5 歳 497,880 円 127 人 75 人 13 ケ所	行政区 人口 世帯数 高齢化率 65歳以上人口 平均年齢 市社協補助金 ネットワーク数 ふれあい委員数 サロン設置数	25 地区 14,310 人 6,037 世帯 35.2 % 5,041 人 50.2 歳 878,000 円 406 人 230 人 13 ケ所	行政区 人口 世帯数 高齢化率 65歳以上人口 平均年齢 市社協補助金 ネットワーク数 ふれあい委員数 サロン設置数	25 地区 1,948 人 807 世帯 47.2 % 919 人 57.7 歳 266,320 円 98 人 64 人 12 ケ所	行政区 人口 世帯数 高齢化率 65歳以上人口 平均年齢 市社協補助金 ネットワーク数 ふれあい委員数 サロン設置数	48 地区 1,687 人 782 世帯 55.0 % 928 人 61.6 歳 262,120 円 91 人 82 人 13 ケ所
共通事業	1 ふれあい委員活動の充実 ・ブロック別研修及び連絡会議(コロナのため中止) 研修:高齢者福祉等について 連絡会議:見守り対象者の見直し、意見交換 2 広報紙の発行(年2回)(コロナのため中止) 3 いきいきサロンの支援 ・サロン活動の啓発・紹介 ・サロンサポーター研修会(コロナのため中止)	1 ふれあい委員活動の充実 ・ふれあい委員研修会(コロナのため中止) ・対象者の選定・情報交換:各地区において実施 連絡会議:見守り対象者の見直し、意見交換 2 広報紙の発行(まち協との合同発行:年4回) 3 いきいきサロンの支援 ・助成金交付 ・サロンサポーター研修会(中止) 4 福祉座談会 ・住民参加型生活支援事業「ふれあいの日」の実施(中止)	1 ふれあい委員活動の充実 ・ふれあい委員連絡会議(鏡・文政・有佐地区) 事業説明、台帳整備、福祉座談会 ・コロナのため中止※台帳整備は書面にて実施 2 広報紙の発行(年1回) 3 いきいきサロンの支援 ・助成金交付 ・助成金交付 ・ボランティア研修会(コロナのため中止) ・レクリエーション講習会(//)	1 ふれあい委員活動の充実 ・ふれあい委員研修会(コロナのため中止) 事業説明(コロナのため中止) ・台帳整備(5地区に分けて少人数で時間別に開催) ・福祉座談会(コロナのため中止) 2 広報紙の発行(年2回) 3 いきいきサロンの支援 ・校区サポーター研修会(コロナのため中止) ・研修会内容を広報誌に掲載(コロナのため中止)	1 ふれあい委員活動の充実 ・ふれあい委員研修会(コロナのため中止) 事業説明(コロナのため中止) 2 広報紙の発行(年1回 1月) 3 いきいきサロンへの支援 ・サロンサポーター研修会(コロナのため中止)	1 ふれあい委員活動の充実 ・ふれあい委員研修会(コロナのため中止) 事業説明(コロナのため中止) 2 広報紙の発行(年1回 1月) 3 いきいきサロンへの支援 ・サロンサポーター研修会(コロナのため中止)			
独自事業等	4 第12回一人暮らし高齢者交流会(70歳以上)(コロナのため中止)	4 男性の料理教室(年1回 10月)(中止) 5 わくわく親子料理教室(中止) 6 福祉のつどい(中止) ・講演、いきいきサロン・地区からの出し物 7 年賀状交流事業(75歳超独居者等、子供会協力) 8 「お助けネットワーク表」の作成(各地区において実施) ・一人暮らし75歳以上 ・見守り対象者 9 各地区別一人暮らし高齢者・見守り対象者交流会(中止) ・講話、ゲーム、情報交換会、会食懇談 10 住民参加型生活支援事業「ふれあいの日」(中止) 見守り対象者の囲いごとにに対し、地域住民が手助けをする支え合い活動	4 福祉グラウンドゴルフ大会 5 一人暮らし高齢者クリスマスの集い(世代間交流) ・アートクラブ鑑賞、小学生との交流、合同給食会 →コロナの影響で集いは中止となつたが、 その代わりに小学生(高学年)にクリスマスカードの作成を依頼し、一人暮らしの高齢者の方へ配布した。 6 福祉団体スポーツ大会・ニュースポーツ大会 →コロナのため中止 7 見守りウォーキング事業 8 レクリエーション講習会、研修会(コロナのため中止) 9 敬老会(協賛) →式典はコロナのため中止。対象者にはメッセージ・記念品を贈呈した。	4 ひとり暮らし高齢者のつどい(70歳以上) ・コロナの影響により消耗品を配布した。 5 地区分別見守り組織推進座談会 (福祉座談会と同時開催)(コロナのため中止) 6 地区分別福祉座談会(コロナのため中止) ・講話「見守り活動について」 地域の困りごとを各地区で話し合い 見守り対象者台帳及び名簿の整理	4 料理教室(コロナのため中止) 5 ひとり暮らし高齢者の見守り訪問(70歳以上) ・フレーズドライの珠餌汁とゴミ袋をせっとにして配布 6 地区分別福祉座談会(コロナのため中止) ・講話「見守り活動について」 地域の困りごとを各地区で話し合い 見守り対象者台帳及び名簿の整理	4 料理教室(コロナのため中止) 5 ひとり暮らし高齢者の見守り訪問(70歳以上) ・フレーズドライの珠餌汁とゴミ袋をせっとにして配布 6 地区分別福祉座談会(コロナのため中止) ・講話「見守り活動について」 地域の困りごとを各地区で話し合い 見守り対象者台帳及び名簿の整理			

